


小学校 第1学年 A表現（1）アイ B鑑賞（1）ア		実践校 神戸町立神戸小学校 授業者 小長谷 真実 実践時期 3学期 全6時間
題材名 かみざらコココ		

つながりを生かす

- 「ひと」とのつながりでは、友達との交流をいかし、様々な見方、考え方があることを知る。そのために、作品交流では、自分にはない作品の工夫を見つけるようにする。
- 「もの」とのつながりでは、折り紙等の身近な材料を使い、楽しくものをつくり出す喜びを感じてほしい。折り紙を切って貼ったり、折ったものを貼ったりすることで、ものとの関わり方を育てたい。
- 「ちから」とのつながりでは、仕組みについて転がして感じたこと、想像したことから、表したいことの発想や構想を繰り返す。手や体全体の感覚を働かせ、表したいことを基に表現方法を工夫する。

題材の流れ

第1時 作品例の提示, 構想

作品例の転がる様子を見て、自分はどんな作品をつくりたいか、どんな世界を表現したいかを想像し、発表する。

・果物の世界にしたい。たくさんの好きな果物を貼りたいな。
 ・僕は宇宙の世界かな。回るときに、たくさんの星が見られたらきれいかも。

第2時 作品づくり (色塗り)

教科書の作品を見て、見通しをもつ。自分の表したい世界を、折り紙や色で表現する。友達の作品を見てまわり、世界を広げられるようにする。

ポイント1
 導入では、色塗り等をしていない作品を準備した。実際に走る様子を提示して、転がる世界を想像できるようにした。テーマを設定し、それに向けて飾りを付けたり、色を塗ったりできるように配慮した。

第3・4時 作品づくり (組み立て)

色塗りをしたパーツを組み立てて、飾り付けをする。転がる部分に貼る工夫や、タイヤに飾りを貼る工夫が分かるように、作品を見てまわれるように時間を確保する。

・タイヤに付いている輪っかがかっこいいな。
 ・真ん中に飾りを付けてみたいな。
 どうなるのかな。転がるのが楽しみだね。

あの子はタイヤの飾りを工夫しているな。自分の作品にいかしたら、どんな世界になるのだろう。

第5・6時 鑑賞

探検バッグ等で傾斜を作り、転がして遊んだ。お互いが転がし合うことで、自分の世界がどのように転がるかを確認できるように工夫した。

ポイント2
 出来はじめた子には「どんな世界ができたの?」や「この工夫、〇〇の世界みたいで素敵だね。」等の言葉がけをして、作りたい世界を広げられるようにした。

作品例



授業を終えて

手本となる作品例を提示したことで、飾り付けや表現したい世界等、自分の考えを広げられる教材となった。試行錯誤を繰り返す中で、自分の世界をつくり出す楽しさを味わっている児童が多くいた。何を描いていいか分からない児童は、イラスト集や、友達の作品を見ることで、飾り付けの工夫や、作りたい世界を考えることができた。